

ノ夜ニ於テハ其ノ要ナシト雖モ暗夜ニ在リテハ敵ニ曝露セザル如ク機關部ヲ照明シ得ル如ク施設ヲナスヲ可トス蓋シ裝填ヲ容易ナラシメ且ツ故障ノ排除ヲ爲スニ容易ナレバナリ尙ホ前地ヲ照明スル爲メ野戰電燈等ヲ使用スルヲ得バ更ニ有利ナリトス。

夜間ノ射撃ハ之ヲ間斷シテ實施スルヲ可トシ長ク持續スルハ嚴禁トス何トナレバ攻者ハ射撃ヲ受クルヤ停止シ彈巢トナルコトヲ避クベク從ツテ低キ目標ニ對シ效果尠ナキ射撃ヲ爲スヲ以テ徒ラニ彈藥ヲ消費スルニ過ギザレバナリ。日露戰役中ニ於ケル夜間射撃ノ效力ニ關シ露ノ一雜誌上ニ掲ゲタルモノハ次ノ如シ。

第五東部狙撃機關銃隊ハ九月二日夜我ガ防禦線前百五十米突乃至二百米突ノ距離ニ近接セル日本軍ノ攻撃ヲ擊退セリ。

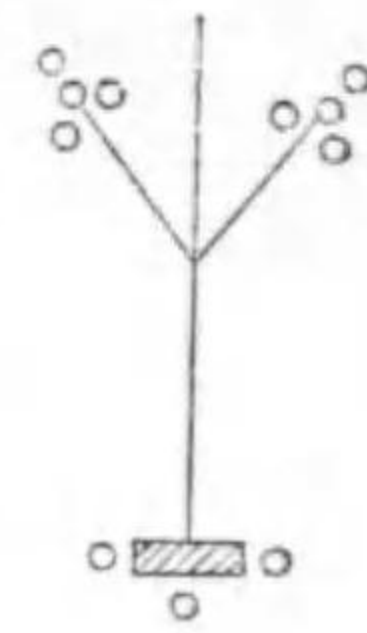
此ノ中隊ハ當時夕刻前ヨリ照準ヲ定メ銃ヲ固定シ各機關銃ニハ銃手ノ若干ヲ配置シ監視セシム第一線ニ在リシ歩兵ハ連日ノ戰鬪ノ爲メ疲勞シ睡眠ノ状態ニ在リ此ノ際最前線ニ在リシ一銃手ハ前方ヨリ潛行シ來ル二人ノ人影ヲ見タ

リ其ノ時機關銃隊長ハ該地ニ在リテ前地ヲ透視シタリシニ黑影群ヲ成シ前進シ來ルヲ知リ直ニ射撃開始ヲ命スルヤ準備セラレタル各銃ハ號令一下何レモ二連射撃ヲナセリ幾程モナク暗瞻四面寂トシテ聲ナク戰場ハ遺棄セラレタル傷者ノ悲惨ナル呻聲ヲ聞クノミニシテ爾後再ヒ攻撃ハ行ハレサリキト。

夜間射撃ノ設備。

夜間射撃ヲ設備スルノ狀況ハ概ネ左ノ場合ニアリ。

- (1) 晝間ニ於テ銃ヲ据ヘ得ルトキ。
 - (2) 晝間銃ヲ据ヘ得ザルモ敵ニ秘シテ其ノ設備ヲ爲シ得ルトキ。
 - (3) 全ク夜間ニアラザレバ設備シ能ハザルトキ。
- (1) 場合
- (イ) 銃ヲ射撃スベキ方向ニ直角ニ据ヘ。
 - (ロ) 兩前脚及後脚ノ衝鐵ノ下ヲ搦固ス。
 - (ハ) 杭ヲ以テ脚ヲ固定ス即チ左圖ニ示ス如シ。



(二) 照準線ノ維持

點射 普通ノ如ク照準シ方向緊定桿及解脫子ヲ緊メ銃身ノ所ニ左圖ノ如キ杭ヲ作り此ノ杭ノba面ト銃身トノ間ニ若干ノ間隔ヲ存スル如ク楔子ヲ入ル、但シ射撃ノ際ハ之ヲ脱スルモノトス。

銃身ト此ノ部分ニ若干ノ空隙ヲ存セシムルモノナリ。



又此ノ杭ニ代フルニ天幕ノ支柱ヲ用フ即チ二本ノ支柱ヲ杭ノ如ク縛リ置ケバ可ナリ。

難射 兩端ニ難射巾丈ケノ杭ヲ打入レ而シテ兩端ノ杭ハ點射ノ時ノ杭ト同様ノモノヲ用フ。

(2) ノ場合

點射難射共其ノ照準高ヲ定ムルニ燈火ニヨル法アリ即チ所要照尺ニテ照準シ置キ又照尺ヲ某點迄上ゲ提燈ヲ照準スレバ可ナリ。

最低及最高姿勢ニ於テ地面ヨリ所要距離ニ應ズル照尺ノ照門頂迄ノ高サヲ定尺ニ目盛リス此ノ目盛リヲ爲セシ定尺ヲ照準手保持シ助手ニ他ノ棒ヲ持タシメ晝間銃ヲ据ヘントスル位置ニ至リテ位置シ助手ヲ二三十米突前方ニ立タシメ目盛ト目標トヲ照準セル線ヲ助手ノ棒ニ記シ是ニ白布ヲ縛ス。

(3) ノ場合

射撃セントスル點ニ燈火ヲ點シ是ニ對シ照準ヲ規正シ置ク若シ敵ノ斥候等ニ妨害セラル、虞レアル時ハ勇敢ナル斥候ヲ派シテ此ノ地點附近ニ照明ヲ爲サシメ其ノ火光ニ依リ機敏ニ照準ノ方向ヲ付クルヲ可トス。

裝填操作及故障ヲ生シタル時之ヲ容易ニ修正スル爲メニ照準機ヲ照ス方法ハ天幕ヲ銃ノ上方及敵方ニ面スル方向ニ支柱ヲ以テ張り射撃ニ必要ナル開口ヲ

存セシメ是レヨリ銃口ヲ出スモノトス。
其ノ他地形ト情況トニ依リ諸種ノ方法手段アルコトハ勿論ニシテ前項ハ單ニ其ノ一例示シタルニ過ギザルモノトス。

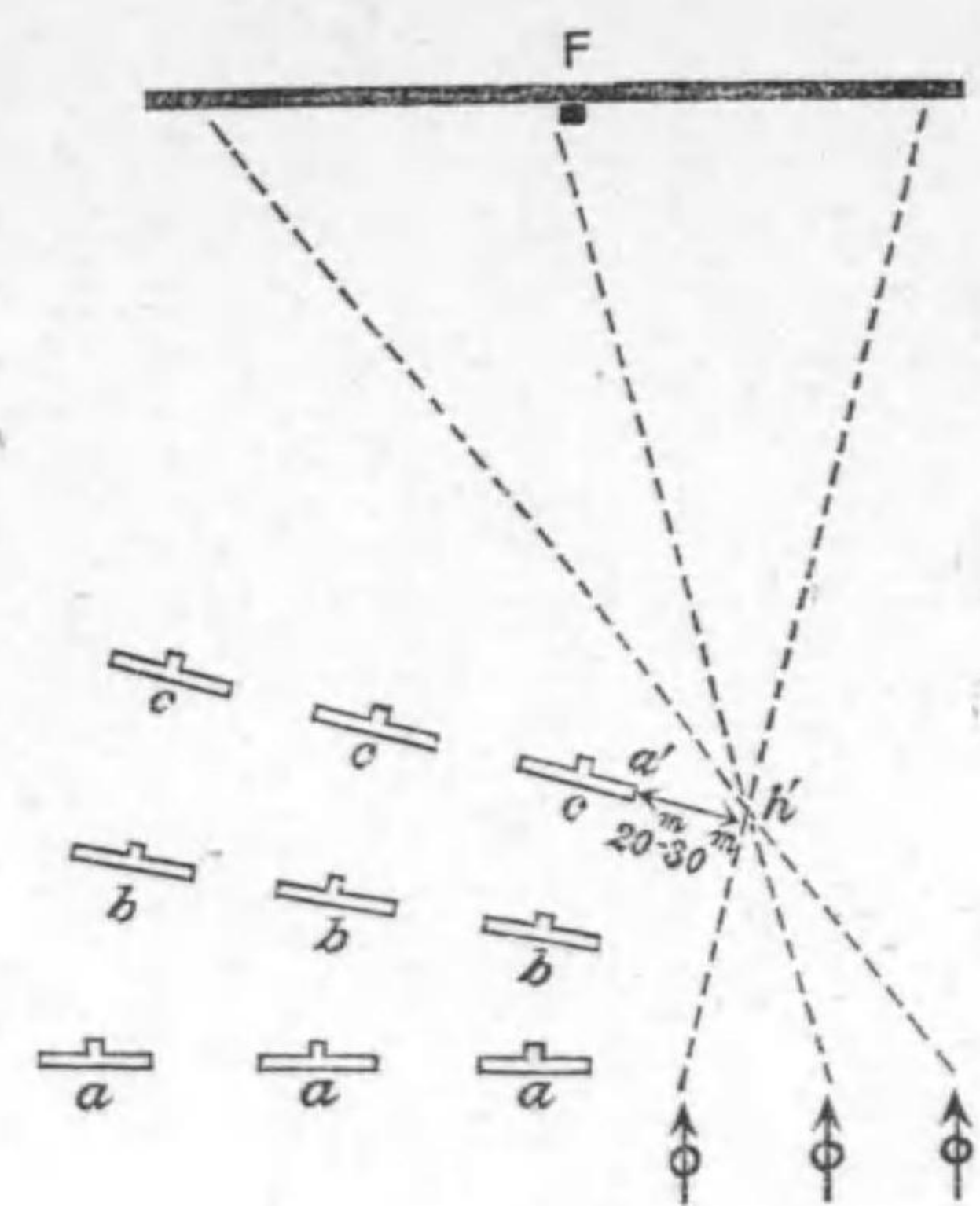
第六章 歩兵ト機關銃トノ協同動作

機關銃ハ聯隊戰團ノ骨子ニシテ歩兵ト最モ密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ兩者ノ圓滿ナル協同動作ニ就テハ吾人ハ大ナル注意ヲ拂ヒテ研究セザルベカラズ而シテ其ノ協同動作ハ敵ノ位置、地形及友軍ノ展開ノ狀況等ニ依リ固ヨリ其ノ陣地ノ選定ニ差異アリト雖モ之ヲ概別スレバ概ネ左ノ場合アリ。

- 一 機關銃ヲ翼側ニ使用シ得ル場合(機操第五十八)
- 二 友軍歩兵第一線附近ニ在ル高地ヲ利用シテ使用シ得ル場合(機操第五十八)
- 三 兩翼ハ限界セラレ前二項ノ場合ニ該當セズシテ止ムナク歩兵線ニ投入シテ使用シタル場合(機操第七十五)

第一ノ場合ニ在リテハ兩者ノ協同動作ハ多ク困難ヲ感スルコトナシ即チ機關銃

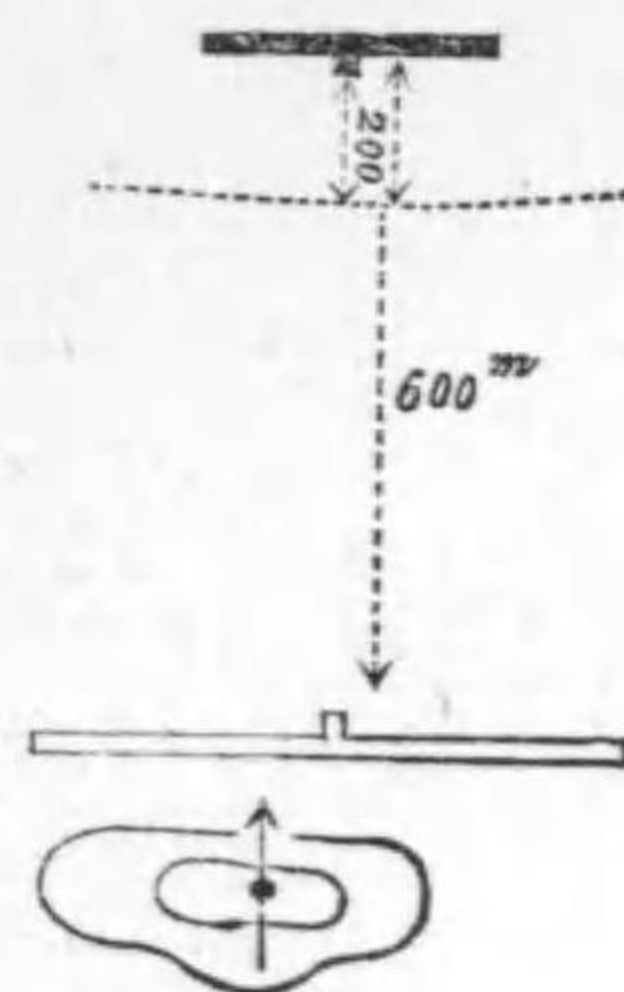
ヲ歩兵線ノ一翼ニ使用シテ歩兵ノ前進ヲ射擊ヲ以テ援助シ且ツ之ヲ妨害スルコト稀ナレバナリ所謂機關銃ノ側防火機操第五十八ニシテ左圖ニ示スガ如シ。



上圖ニ於テ友軍歩兵第一線ノ右翼ト右小隊機關銃ノ照準線トノ間隔即チハ歩兵ノ第一線ノ右翼兵ニ危險ヲ與ヘザルヲ以テ度トセザルベカラズ今單ニ學理上ヨリ言ヘバ此ノ間隔ハ三八式機關銃ノ水平公算躲避ノ四倍餘ヲ存スレバ可ナルガ如シト雖モ發射彈數ノ増加ニ伴フ躲避ノ増加ト戰時ニ於ケル公算躲避ノ倍加トハ以上ノ間隔ニテハ不十分ナリ況ンヤ往々ニシテ不規彈ノ在ルニ於テフヤ、今一萬發ヲ發射シタル三八式機關銃ト假定セバ此ノ水平公算躲避ハ中距離ニ於テ平均約五十種ナルヲ

以テ之レヲ全被弾面(八倍)トスルモ四米ニシテ尙ホ其ノ安全ヲ期スル爲メ之ヲ倍加シ且ツ若干ノ餘地ヲ存シテ十米ト爲スヲ可トスル論者アリト雖モ此ノ如クスルトキハ其ノ彈丸ハ右翼兵ノ直前約八米ヲ通過スルヲ以テ其ノ安全ヲ保シ難シ故ニa'b'ノ間隔ハ二乃至三十米ヲ以テ適度トス。

第二ノ場合ニ於テ散兵線附近ニ比高約十米ノ高地アリトセンカ此ノ際該高地上ノ陣地ヨリ歩兵ノ前進ヲ援助スベキ射撃ノ程度ハ即チ第二篇第五章第四節ノ友軍超過射撃ニ於テ詳細研究セラレタル如ク敵ヲ距ル約二百米突附近迄射撃ヲ爲スコトヲ得、爾後機關銃ガ我が突撃ヲ準備且ツ援助スル爲メ尙ホ前進シ得ルヤ否ヤハ地形ト敵火ノ效力トニ關スルコト多ク要スレバ夜暗ヲ利用シテ第一線ニ陣地ヲ變換セザルベカラズ而シテ爾後ノ動作ハ第三ノ場合ト一致スルニ至ルベシ。



第三ノ場合ハ現今ノ戰鬪ニ於テ大團隊ヲ戰場ニ用ユルノ結果通常聯隊ノ兩翼ハ他部隊ノ爲メニ限界セラレ適當ナル側方ノ陣地選定ヲ許サ、ル場合多ク且ツ又散兵線ノ後方ニ適當ナル制高ノ陣地アル

如キ好都合ノ地形ハ戰場ニハ常ニ存在スベキモノニアラズ滿洲ノ平野ノ如キ殊ニ然リ故ニ已ムヲ得ズ機關銃ノ陣地ヲ歩兵線内ニ注入セシメザルベカラズ此ノ如キ場合ハ吾人ガ屢々遭遇スベキ情況ニシテ隨テ研究ヲ要スベキモノナリ、操典第七十五ニ曰ク。

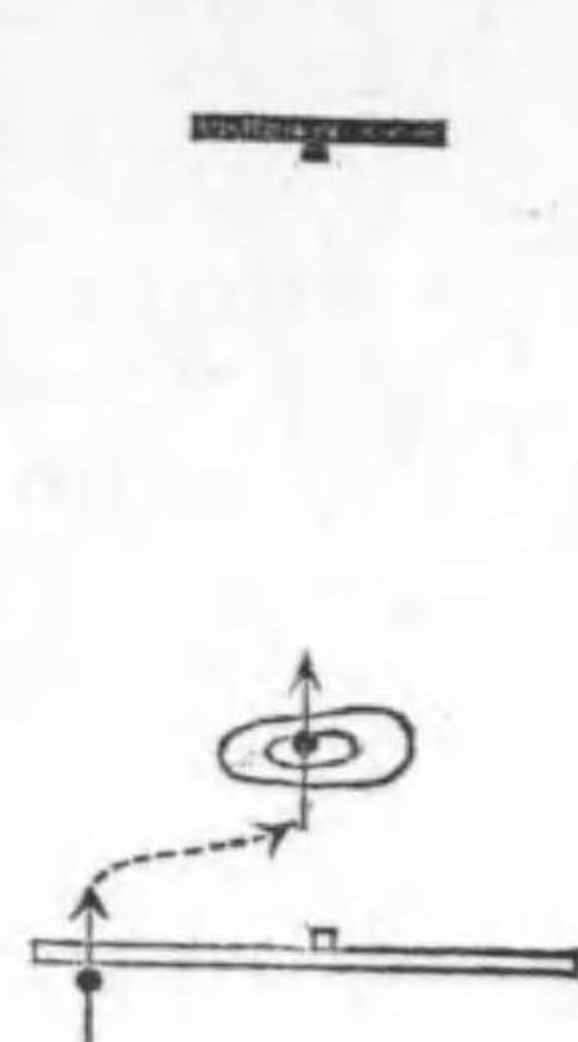
攻撃ニ際シ機關銃ヲ散兵線内ニ用ヒタル場合ニ於テハ地形ノ關係上散兵ノ前進ニ伴ヒ機關銃ノ陣地ヲ換フルノ已ムナキニ至ルコトアリ又散兵ノ前進ニ先チ既ニ陣地ヲ換フルヲ必要トスルコトアリ歩兵ノ突撃ヲ最モ有效ニ援助セントスルトキニ於テ特ニ然リ此際附近ニアル歩兵部隊ハ直チニ之レト協同動作ヲナスベキ義務アルモノトス。

機關銃散兵線内ニ用ヒラレアル場合ニ於テハ之ニ隣接セル歩兵部隊ハ其前進ニ方リ機關銃ノ射撃ヲ妨害セザル如ク特ニ注意スルヲ要ス」ト此ノ主旨ヲ玩味スレバ即チ左ノ三ツノ場合ヲ生ス。

1. 歩兵散兵ト同時ニ前進ス。
2. 歩兵散兵ノ前進ニ先チ機關銃ヲ前進セシム。

3. 歩兵散兵先ヅ前進シ次ニ機關銃是ニ追及ス。
 第一ノ場合ハ歩兵ノ射撃ヲ妨ゲサルモ最モ必要ナル歩兵ノ前進ヲ援助スルコトヲ得ス是レ決シテ望ム所ニアラズ。
 第二ノ場合ハ左圖ノ如キ地形ニ於テ屢々應用スルコトヲ得ルモノニシテ即チ先ツ機關銃ヲ散開前進セシメ其ノ援護下ニ歩兵ヲ前進セシム。

甲

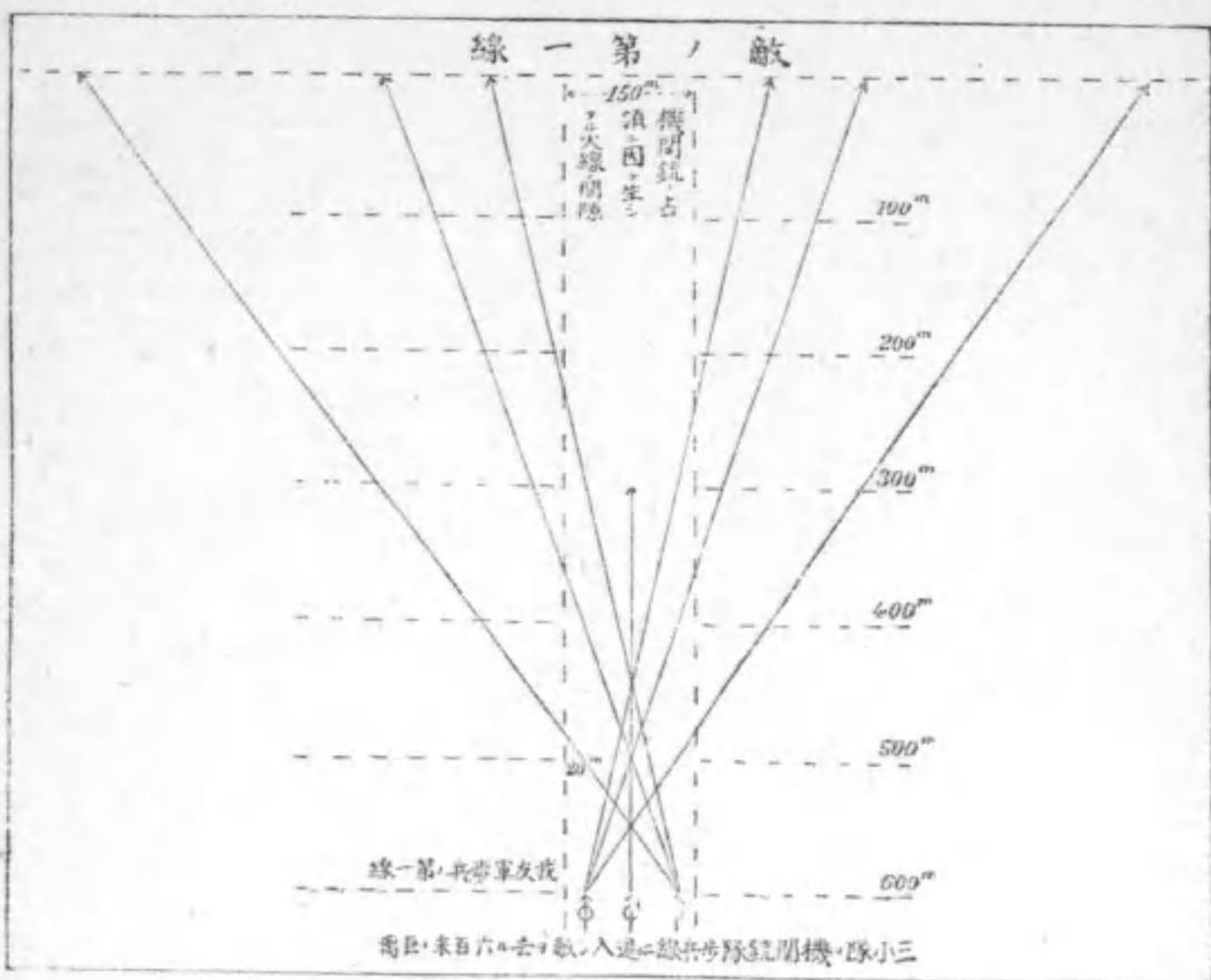


乙



第三ノ場合此場合ハ即チ歩兵線ト機關銃トノ躍進法ニシテ機關銃ノ直接左ニ隣接セル分隊ハ機關銃指揮官ノ命令ニヨリ機關銃ノ前進ト同時ニ躍進ヲ行フ是レ即チ歩兵線ノ躍進スル場合ニ於テ射撃效力ノ大ナル機關銃ヲ以テ援助射撃ヲ爲スト共ニ機關銃ノ兩側ニ在ル歩兵ノ前進ニ依リ機關銃ノ前進ヲ覆面スルコトヲ得レバナリ。

今機關銃ノ兩側ニ各一分隊ノ散兵ヲ協同セシムルトセバ機關銃ニハ七分隊ヲ要シ其ノ機關銃隊ノ正面約百五十米ノ火線ノ正面トナル此ノ如キ散兵線内ノ火線ノ間隙ハ是ニ連繫スル他ノ歩兵線ノ攻撃躍進ニ際シ機關銃ノ十字火ニ依リ我が前進歩兵ヲ妨害スル敵線ノ廣正面ヲ射撃スルコトヲ得テ歩兵ノ前進ヲ大ニ有利ナラシムルコトハ左圖ニ就テ見レバ明瞭ナリ即チ此ノ圖ニ於テハ約六百米ノ距離ニ於テ散兵ガ約百米及二百米ヲ躍進スル間我が機關銃隊ヲ以テ直前ノ敵ノ正面幾何米ヲ薙射シ得ルヤノ割合ヲ示スモノニシテ其ノ梯尺ハ五密ヲ二十米トナシ主線ハ敵ノ正面ニ直角ナルモノトセリ。



第七章 歩兵ノ機關銃 ニ對スル戰法

歩兵ノ機關銃ニ對スル前進隊形ハ歩兵ノ戰鬪法ト其ノ趣キヲ異ニシ散兵ハ大間隔ニ散開シ各個躍進ヲ爲スヲ可トス且ツ良ク地形ヲ利用シテ前進シ少數ナリトモ出來得ル限リ機關銃ニ近接シ銃手ヲ狙撃スルニアリ一般ニ機關銃ニ對シテハ外翼ヨリ斜射ヲ行フヲ有利トス、防楯ヲ有スルモノニ在リテハ特ニ然リトス、散開シタル間隔大ナル時ハ命中效力少ナキヲ以テ攻者ニハ有利ナリ、

瑞西國歩兵操典ニ曰ク。

『歩兵聯隊ニ狙撃小隊ヲ作り大間隔ニ散開前進シ敵ノ銃手ヲ射撃ス』ト。

第八章 砲兵ニ對スル機關銃

機關銃ハ遠距離ニ於テハ砲兵ノ敵ニアラス却テ破壊セラルルモノトス故ニ遠距離ニ於テ砲兵ト威力ヲ爭フハ嚴禁トス、寧ロ砲兵ニ對シテハ遮蔽ノ處置ニ出デサルベカラズ而シテ砲兵ニ對シテハ力メテ近接シ且ツ斜射又ハ縱射ヲナシ得ル位置ニ突進スルニアラザレバ效果無シ是レ砲兵ニ對スル戰法ナリ。

日露ノ役奉天會戰三月一日午後四時頃第五師團ニ屬セル山砲兵一中隊ハ王家窩棚附近ニ在リシ機關銃破壊ノ命ヲ受ケ萬難ヲ排シ敵前約六百米突迄肉簿シ猛射ヲナシタル結果敵ノ機關銃ヲ全ク殲滅スルヲ得タリ。

世界大戰ノ實驗ニ基ク 機關銃之技術及其戰術終

大正五年五月廿五日印刷
大正五年五月廿四日發行

機關統之技術及其戰術與付

全一冊 金壹圓 郵稅八錢



不許翻刻
復製

著者	小野庄造
發行者	山口道正
發行者	東京市赤坂區表町二丁目一番地 伊藤芳松
印刷者	東京市麴町區下六番町十七番地 松澤江三

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話芝五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

兵書界の革命的大的評好書

◎兵書界の革命的新刊!!
研究會著 ◎大好評を博し忽ち賣切れ第五版發行

戰略戰術詳解

體裁菊版頁數各册
約三百頁前
製本本製金文字入
全七册正價 郵税金八錢

研究會の斯界に於ける地位は今更喋々
するを要せずと雖も其會員の大多數は
實施學校の要職にある者なることは既
るを得たり。今「戰略戰術詳解」は研究
初て完成したる未會有の大高等學府の
著なり。研究會員の奮勵と其高等學府
に正確なるかは茲に贅言とす。其冊數
に對するも又以て誇りとなすに日本
國粹を立脚するに足らざるなり。上將
戰術を語るに足らざるなり。上將帥
者は必ず之を其座右に備へざるべから
べからずと信ず豈何ぞ必ずしも陸軍大
陸軍大學受驗者とは云はんや又青
年將校とは云はんや。

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

研究會著 ◎訂正第二版發行

新陣中要務令對照研究全

(附改正理由)

體裁菊版
頁數約五百頁
全一册
金七十五錢
郵税金八錢

世界ノ大戰ハ今ヤ正ニ酣ナリ而シテ我陣中要務令ハ新タニ公布セラレタリ苟クモ職ヲ我陸軍ニ奉ズ
ルモノ之カ改正ノ要點理由等ヲ明ラカニシテ一ハ以テ日常ノ職責
キヲ期スルト共ニ刻下焦眉ノ急千載一遇ノ要求ニ應ズルニ於テ敢
テ或ハ後ル、ナカランコトヲ期セラルベキヤ勿論
ナリ本社茲ニ見ルアリ曩キニ斯界ノ「オーストリチ」タル研究會ニ囑ス
位ト識量ノ即チ本編ヲ以テセルニ同會ハ大ニ本社ノ斯舉ヲ諒トシ同會特有ノ地
闡キ細キ餘サハルニ於テ時運ノ要求ニ合セルカハ
否ヲ判セラルト共ニ之ヲ實際ニ運用スルニ於テ此千載一遇ノ好機ヲ逸スルナカランコトヲ

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

來出版再二第一第所の切賣

◎全部出版完成急告!!!
研究會 著
祝完成ノタメ此際申込者ハ凡
テ郵税ヲ不要又月賦拂込不苦

改陣中要務詳解 全拾冊

體裁菊判製本
字入紙數各三百
五十八頁正價一
冊金八十五錢內
地送料八錢

戰局ハ益々擴大セラレ東亞ニ南洋ニ今ヤ到ル所旭旗翻陣中要務ノ研究蓋シ斯
翻ヲ見ントシ軍事ノ必要刻々ニ增加擴大セラレトス
秋ヨリ急且ツ大ナルハナケシ
ニ基ツク一大詳解ノ刊行ヲ企ダテ斯界ノ一オ
シテ着手以來茲ニ十有餘全部十卷、殆下四千頁、多
旬、豫定ノ期ヲ違ハズ、全部十卷、殆下四千頁、多
ト明快説明ノ懇切叙述ノ精細詳緻ニシテ改正ノ主旨
ヲ達ハズ、所ニ於テ些ノ遺漏ナキコト等ハ大方諸賢ノ
ニ以テ誇リト爲スモノナリ希ハクハ一本ヲ備ヘテ時勢ノ進運ニ後ル、勿ランコトヲ

發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

東京赤坂區表
町二百一番地

兵事雜誌社

研究會 著

範例的想定全

體裁菊判、紙數約百五十頁
三度刷除形配布圖十餘枚入
全一冊 金五十五錢
郵税金六錢

數學には公理公式等ありて之を運用すれば如何なる難問題と雖も忽ち解決
應用戰術豈條理系統なからんや茲に於てか研し得べし。
に何等の條理系統研究の指導者某某氏等が戰術研究の公理公式と
なるべき想定二十種を案出し之を研究講話したるに大効
想定一書と命名し本社に請ひを容れて本
本書に掲ぐる想定は僅に廿案より少なしと他の多種多様の觀あり且つ復
せず然れども此の二十の想定を研究すれば他の多種多様の觀あり且つ復
雜混淆せる想定に對しても分析解剖必ず其の歸着
する所を發見するに足るべし、即ちの本書の價值は多言を要せず左
定理的想定! 範式的想定!
故に將來難局に處去就を決し幾多の想定に對して正當
の解決を得んと欲せば先づ宜しく本書を繙れんと
とを 本書は目下兵書界に於て「決心問題」と着眼點の兄弟たるべ
大好評を博しつゝある

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替口座番號二〇九八七番

東京市赤坂區表町二丁目
兵事雜誌社

!!刀利!!星明の界術戰

研究會 著 ◎忽ち初版再版賣切三版發行

戰術難問題の解決

冊二全
體裁判明木板
百餘個入製本
上等クロスマ
字入全上下二
各一冊金七十五
郵税八錢宛

陸軍大學ハ青年將校ノ登龍門ナリ苟モ其初一念ヲ貫徹セント欲スレバ必ズ其門ヲ叩カザルベカラズ然レドモ此事タル決シテ尋常一茶飯ノ談ニアラズ一度躡轉シテ起ツ能ハザランカ優勝劣敗ノ蹟ハ慘シシテ心神ヲ悼マシムルモノアリ是レ鞠躬盡瘁其及バザルヲ虞レシムル所以ナリ然リ而シテ大學入學試験中其最モ困難ナルヲ再審トナシ再審中最モ困難ナルモノヲ戰術トナス本社嘗テ研究會員ニ請ヒ再審試験難問題ノ解決ヲ兵事雜誌ニ掲グルヤ江湖ノ士督責慙慙シテ其大成ヲ促スコト切ナルモノアリ、謂フニ其事ノ緊喫シテ其益スル所甚大ナルニ因ルベシ茲ニ於テカ本社ハ更ニ未ダ發表セザル難問題數十ヲ加ヘ詳ニ之ヲ研究シ時ニ再審試験問答ノ要領ニ擬シ以テ從來嘗テ見ザルノ懇切ト精細トヲ發揮セリ希クハ江湖篤學士ノ渴仰ヲ醫スルヲ努メタリ請フ一本ヲ備ヘテ人後ニ落チザル準備ヲ整ヘ其初一念ヲ貫徹センコトニ努力セラレヨ是レ本社私利ノ爲ニアラズシテ實ニ國家ノ爲切望ニ堪ヘザル所ナリトス

◎發行所 東京市赤坂區表町 兵事雜誌社
電話芝 五六〇五番

出版六の切賣時しを博評好々早行發書本

研究會 著

決心問題と着眼點

體裁美頁數二百餘頁
全一冊 金五拾錢
郵税六錢

研究會の出す所撰に『作戰綱要』あり。幾何も無くして『改正步兵操典詳解』あり。今又第三の研究として、茲に『決心問題と着眼點』を刊行するの榮を荷へるは、顧みて本社欣懐措く能はざる所なり。思ふに事物の成功する否とは、一に其の着眼の敏なると否とに由り、又決心の如何に關するや固より大なり。換言すれば、着眼宜しくして適當の判斷之に伴ひ、判斷適正にして其の決心果敢なるに於ては、即ち少くとも先づ先制の利を攫得するものと謂ふべし。軍事上の事亦何ぞ異らん。一勝一敗、興亡隆替の跡、古來の戰史は歴然として之を指示せるに非ずや。本書は即ち戰略上、戰術上、該二者の喫緊なる所以を述べ、以て各種の場合に於て、其の如何にすべきものなるかを縷述せるもの、もと陸軍大學受験者、及特志者の爲に研究講話せるもの。今請うて之を刊行するに當り、本社は刊行上自ら其の『着眼點』及『決心』の當を得たるを悦び、江湖に對しても亦『着眼點』及『決心』の機敏且果敢ならんことを勸む。蓋し之を繕くと一日早き時は、研究上修養上、即ち自ら機先を制するものなればなり。豈敢へて售るが爲にのみ爾か言はんや。

◎發行所 東京市赤坂表町二丁目一番地 兵事雜誌社
電話芝 五六〇五番

本廣告を看過す勿れ

研究會 著 兵棋界革新の新刊!!

新式兵棋詳解

本書は江湖戰術研究に熱中せらるる諸賢の既に熟知せらるる研究會に於て本邦に於ける兵棋のオーソリチーと稱せらるる某氏か其研究に基き講演せられたるものなり。

從來の兵棋は型に囚はれ非實戰的にして趣味も亦極めて低かりしか故に之を實施する者甚だ少なりしが如し。

某氏は深く之を慨し茲に此新式兵棋を唱導し敢て世界の進運に後れさらんことを期せり目下我が高等學府に於ては此の方法を採用せられあるに反し軍隊其他に於て依然舊套を脱せざるは我が軍事界の耻辱ならずとせんや是れ本社が特に研究會と因縁あるを幸ひ請ふて公刊し廣く江湖に紹介する所以なり。

發行所

振替貯金口座二〇九八七番
電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

賣切中なしり本の改訂増補は出來り

改訂増補第十一版發行

改正步兵操典詳解

體裁菊判紙數各約三百頁宛
上卷一冊 郵金 六十六錢
下卷一冊 郵金 六十六錢

數回ノ大戦役ヲ經テ今ヤ我が帝國ハ列強先進國ノ伍伴ニ入り最新ノ經驗者トシテ世界軍國ノ間ニ大ニ重キヲ爲セリ宜ナル哉其ノ新經驗ニ準據シテ編成セラレタル步兵操典ノ公示セラル、ヤ列強競ウテ之ヲ翻譯シ一日モ新智識ニ後レザラントシテ其ノ研究ニ努力スルコトヤ此ノ如キハ實ニ我が陸軍ノ至大ナル名譽ト言ハザル可カラズ然リト雖モ世運ハ須臾モ停滯セズ吾人ニシテ永ク此ノ名譽ヲ失墜セザラントコトヲ欲セバ必ズ之ニ對スル責任ノ益々大ヲ加フルコトヲ覺悟セザルベカラズ著者諸氏深ク感ゼラル、所アリ特ニ會ヲ結ンデ操典ノ研究ニ其ノ熱誠ヲ注ギ衆思ヲ集メテ其ノ結果ヲ輯録シ以テ茲ニ本書ヲ公ニセラレタリ世間同感ノ士亦乏シカラズ半歳ニシテ版ヲ重ヌルコト四回ニ達シ、供給動モスレバ需用ニ伴ハザラントス而モ其ノ間會ノ事業ハ益進行シ研究日ニ日ニ新ナルモノアリ乃チ今又之ヲ増刷スルノ機ニ際シテ更ニ改訂増補ノ試ミ改訂増補シテ面目ヲ新ニスルニ至レリ其ノ研究ノ進境ハ大ニ人意ヲ強ウスルニ足ルモノアリ必ズヤ讀者ノ渴望ヲ醫スルニ餘リアラン讀者其ノ内容ヲ檢シテ此ノ讚辭ノ溢美ニアラザルヲ知ラレヨ

發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金番號二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

319

368

7

終

